

# H27 研究の概要

## 研究主題

### 楽しく「わかる・できる」学習活動の工夫

～ “学びのユニバーサルデザイン” を生かして～

#### 1 研究主題設定の理由

本校では平成25年度より研究主題を「楽しく『わかる・できる』学習活動の工夫」として、特別支援教育の考えを生かした“学びのユニバーサルデザイン”の授業改善に取り組んできた。全ての子どもが「わかる・できる」喜びを実感できるように、全員参加の質の高い授業を目指して、各教科の特性を考えた授業研究を実践してきた。目指す子どもの姿に迫るべく、国語科を中心に各教科において「わかる・できる」授業づくりを再考し、言語活動の質を高め、「思考力、判断力、表現力等」の育成を継続してきた。

また、特別活動における道徳的実践の指導にも力を入れて取り組み、学級活動を基盤にした指導の継続を図ってきた。これらは学習活動を支えるものとして位置づけ、「子どもは、望ましい集団の中で他者とのかかわりを通して育っていくものである。」という考えのもと、全員参加の授業づくりの基盤として大事にしてきた。

その結果、子ども一人ひとりが学習課題を主体的に受け止めて自分なりの考えをもち、学習する姿が見られるようになり、学習状況調査等の結果から、学力の向上も明らかになった。

しかし、話し合いで共有した考えをより質の高い学びへとつなげることや、身に付けた知識を活用することについては、課題が残った。また、子どもたち同士の思いやりのある言動や互いに認め合う関係、そして個々の自己有用感など、学習の基盤となる学級づくりや個に応じた配慮にも一層力を注ぐ必要がある。

そこで、今年度は、学級づくりを学びの土台とし、学びのユニバーサルデザインを生かした授業改善の視点を「共有化」に絞って具体的な実践へとつなげていきたい。そうすることにより、課題となる表現力や活用力の育成に効果を示し、より質の高い学びが創造できるのではないかと考えている。